

NPO法人 百菜劇場



百菜劇場とは
たくさん生きものが暮らし
おたがいに反応しあひながら
さまざまなものが生み出される
創造的な舞台



～自然と人が共に生きる風景を未来へつなぐ～

琵琶湖にほど近い水郷の風景が広がる北之庄町に、農薬や化学肥料を使わない農業を通じて、人と自然、地域と暮らしを丁寧につなぐ生産者がいます。それが、NPO法人 百菜劇場です。

2006年に設立された百菜劇場は、「農と人の暮らしを近づける」「生きものが多様な風景を残す」「食べものが安心なまま子どもに渡る」——そんな未来を目指して、有機農業の実践や食農体験プログラム、加工品の開発など、さまざまな取り組みを行っています。

生きものがにぎわう田んぼを育てる

百菜劇場の田んぼには、カエルやトンボ、小魚の姿があふれ、サギやカモ、ツバメたちが季節ごとに舞い降ります。農薬や化学肥料を一切使用せず、自然の循環を活かした稲作を行っているからこそ生まれる、命豊かな風景です。

土づくりには地元の米ぬかや魚のアラ、鶏ふんなど、身近な資源を活用し、雑草対策には田んぼの水を深く張る・代かきを重ねるといった自然の理を取り入れた工夫を重ねています。育てるのは、農薬に頼らずに育つ強さを持った稲。だからこそ、田んぼには“農”だけでなく、“いのちの営み”そのものが息づいています。



食と暮らしをつなぐ加工品づくり

百菜劇場では、育てたお米や在来種の大豆などを使った加工品づくりにも力を注いでいます。米粉のパンケーキミックス、味噌、塩麴、惣菜味噌などはすべて手作り。特にパンケーキミックスは、アレルギーを持つ方にも配慮し、卵・豆乳・水のいずれでも作れるようレシピが添えられています。

これらの加工品は、百菜劇場の想いと技術が詰まった“暮らしに寄り添う一品”。単なる商品ではなく、つくり手と食べ手が“つながるきっかけ”になるようにと願いを込めてつくられています。

体験を通じて学び、つながる一年

百菜劇場が大切にしているのが、種まきから収穫、味噌仕込みまで、一年を通じて農と食を体験できるプログラムです。家族で参加できるこの体験は、田植えや稲刈りだけでなく、草取りや米麴づくり、味噌仕込み、ちまきづくりなど、昔ながらの知恵や手仕事も体験できます。

また、レンコン掘りや泥んこ遊び、ヨモギ摘みなど、自然とふれあいながら学べる子ども向けのプログラムも充実しています。生きものと共にある田んぼでの体験は、子どもたちにとってかけがえのない学びの場となっています。



百菜劇場の想い

百菜劇場の名前には、「100の種（＝多様な人びと）によって育まれる劇場のような農村空間をつくりたい」という願いが込められています。

「田んぼを始めたころ、“ままごと”と揶揄されたこともありましたが」と語るのは、代表の廣部里美さん。しかし、地域の農地を借りながら有機農業を一步ずつ続け、現在では5ヘクタールを超える田んぼと畑を管理するまでに。農業を生業としながら、自然と調和し、人とのつながりを大切にする生き方を実践し続けています。

「作る人と食べる人の距離がもっと近くなってほしい。農と暮らしが地続きであることを、多くの人に実感してもらいたい」。その想いは、百菜劇場の活動のすべてに息づいています。



「百菜劇場」という未来の農村のかたち

オーガニック農業は、単なる農法ではなく、「どう生きるか」の選択でもあります。百菜劇場は、食と農を通じて、地域と人、人と自然がもう一度つながり直す場をつくろうとしています。

命を育てる農の場を、体験し、学び、分かち合う。「百菜劇場」は、そんな“参加型の暮らし”を提案する、新しい農村のかたちを描き出しています。

団体情報



代表理事 廣部里美さん

- 名称：NPO法人 百菜劇場（ひゃくさいげきじょう）
- 所在地：滋賀県近江八幡市北之庄町
- 公式HP：<https://www.100seeds.net>
- Instagram：[@100seeds_theater](https://www.instagram.com/100seeds_theater)

※団体の活動や想いは、HP内の「農日記」でも随時発信中。
ぜひ一度ご覧ください。